1Ka-8　繊維製品の利用および廃棄の実態 —大学生の寝具・インテリア製品の利用—

福田典子
（信州大）

【目的】 カーペット類は引越しの際に処分される耐久消費財として、最もその数が多く、布団・マットレスは、都市収集粗大ゴミの主な品目である。布団・カーペット類は廃棄物の処理・再資源化において、破砕および焼却が困難な品目として問題となっている。生活系から排出される廃棄物を、繊維製品の観点から考える時、寝具・インテリア製品の資源化や減量化、さらに好ましい廃棄方法や廃棄態度形成について検討する必要がある。そこで、本研究では大学生の寝具・インテリア製品の購入・利用・廃棄の行動や意識を中心とした実態を把握し、その基礎的資料を得ることを目的とした。

【方法】 長野県在住の国立大学教育学部学生（19歳～23歳、男44名女59名）を対象に、寝具・インテリア製品の利用に関するアンケート調査を実施した。調査は、無記名式質問紙を使用し、集合調査方法により行った。有効回収数103で、調査時期は、平成11年11月であった。主な調査項目1）寝具・インテリア製品入手法と意識2）カーペット類の利用実態3）寝具・インテリア製品の廃棄法と意識の3項目であった。本調査では、寝具・インテリア製品の範囲を、主な組成が繊維からなり、形状が比較的大型のものとして、主な対象品を、布団類・カバー類・カーテン類・カーペット類と限定し、回答を得た。

【結果】 寝具・インテリア製品の購入経験を有するものは、全体の約7割であった。購入時、価格やデザインを意識するものは多かったが、リサイクル品について意識するものはいなかった。製品の耐用年数を考慮するものは、全体の約2割であった。製品の耐用年数については、製造者が考える年数よりもやや短く捉えている傾向が認められた。カーペット類を使用しているものは、全体の約7割であった。寝具・インテリア製品の居住地における排出法を知らないものは、全体の約4割であった。製品の廃棄経験者の廃棄理由は、汚れ・破れなどが最も多かったが、ついで、明確な機能低下によらない新品の購入も多かった。